

令和7年度 岡本小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1)基本目標
人間尊重の精神に基づき、一人一人の特性や能力を生かし、他者と協働できる、知・徳・体の調和のとれた児童を育成する。
- (2)具体目標
自ら考え主体的に行動し、心豊かでたくましい児童の育成
○かしこく(進んで学ぶ子) ○やさしく(思いやりのある子) ○たくましく(元気でがんばる子)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- (1)一人一人の児童をかけがえない存在として大切にすること。
- (2)児童の安心と安全を最優先すること。
- (3)児童一人一人の良さや可能性を認め励まし、これからの時代をたくましく生き抜く力を育む。
- (4)研修に励むとともに、互いに学び合い、専門性と人間性を高める。
- (5)保護者や地域の方々と進んでコミュニケーションを図り連携を深める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1)児童一人一人の個性・特性・教育的ニーズの理解に努めるとともに、その特性等に応じた指導・支援について全職員による組織的な対応に努める。
- (2)魅力にあふれ安心して過ごせる学校づくりに努めるとともに、交通安全教室や地震や不審者等を想定した実践的な避難訓練を通して、自身の安全を守るための判断力や実践力を育成する。
- (3)特色ある教育活動と認め励ます教育を推進することを通して、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」の育成に努める。
- (4)学年やブロックを活用したOJTを充実するなど教職員の資質・能力の向上に努めるとともに、校内業務の適正化や勤務時間を意識した働き方の推進を図るなど、一層の働き方改革を推進する。
- (5)魅力ある学校づくり地域協議会との連携や小中一貫教育・地域学校園の取組の推進に努めるとともに、家庭や地域とのつながりを深めながら教育活動を展開する。

[河内地域学校園教育ビジョン]

すこやか河内 ～小中一貫教育を通して、子供たちの心身のすこやかな成長を目指します～

4 教育課程編成の方針

社会の変化やSDGs等に係る現代的な諸課題に対応するため、生涯にわたって成長し続ける基盤となる知・徳・体の調和のとれた力を、児童の発達段階や特性、地域の教育環境、保護者や地域の願いなどを踏まえつつ、教科等横断的な視点で各教科等との関連を図りながら育成する。

＜留意点＞

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図り、縦割り班活動や体験活動を通して、認め合い・励まし合い・協力し合える豊かな人間関係を構築するとともに、心のたくましさを涵養する。
- ・岡小タイム(ロング昼休み)での縦割り班活動や縦割り班清掃、異学年交流会などの児童会活動や学級活動の時間を確保し、児童の主体性を育む取組の充実を図る。
- ・GIGAスクール構想の実現に向けて、1人1台端末を効果的に活用しながら、デジタル・シティズンシップ教育を推進し、情報活用能力の定着を図るための学習活動を計画的に実施する。
- ・魅力ある学校づくり地域協議会の意見や、学校マネジメントシステムアンケートの結果を、教育課程の編成に生かす。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
教職員の資質・能力の向上と働き方改革の推進
・学年やブロックを活用したOJTの充実
・業務の効率化と勤務時間の適正化
・異年齢集団活動や地域資源の活用などの特色ある教育活動の推進
- (2) 学習指導
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
○「宇都宮モデル」を活用し、ねらいを明確にして、「書くこと」の指導の充実を図った、学び合う授業の創出
・「情報モラル/デジタル・シティズンシップ教育年間指導計画」に基づいた、動画やデジタルコンテンツの活用と児童が自律的に責任をもち、互いに思いやりをもって利用するICT機器の積極的な活用
・「宮・未来キャリア・パスポート」を活用した将来の夢や目標をもたせるための取組の推進
- (3) 児童生徒指導
認め励ます教育とたくましさを涵養する教育の充実
○家庭や地域と連携した適切な言葉遣いと挨拶の励行
・いじめゼロ集会や道徳科の授業等で、児童自らがいじめについて考え、意見を交わし、差別やいじめを許さない態度や思いやり・規範意識の醸成を図る指導・支援の充実
・教育相談やQ-Uの結果を活用した不登校の兆しの早期発見・早期対応と、不登校児童への個性・状況・教育的ニーズに応じた指導・支援の充実
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
体力の向上と危険予知・回避能力の育成
○各種検定の実施や外遊びの奨励を通じた運動機会の創出
・保健教育に係る関係機関との連携の推進
・学校栄養士と学級担任等の連携の推進
・交通安全教室や地震・不審者などを想定した実践的な避難訓練の実施

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる」 →児童肯定的回答 85%以上	①協働体制による研究を進め、授業力の向上を図る。全員で授業を公開し合い、より良い授業を目指して協議を行う。 ②様々な方法や観点からの評価により、一人一人の定着度を把握し、個に応じた指導を行う。 ③理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導するとともに、生活、学習の両面で、教師が言葉の意味や使い方を問いかけたり、説明したりする場面を多くし、児童の語彙力の拡充に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】
1-（2） 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 →児童肯定的回答 90%以上	①考え議論する道徳科の授業を要として道徳教育を行い、学年学級を越えて人との関わりを深め、相手を思いやり、相手の立場を考え生活できるよう指導の充実に努める。 ②学校図書館を核とした読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 →児童肯定的回答 80%以上	○学校行事や日々の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めるとともに、ICT機器を活用して児童のよさや努力などを認め励ます教育を推進する。（「児童会活動」「きらきらさん」「宮っ子心の教育表彰」等）	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート 「健康や安全に気を付けて生活している」 →児童肯定的回答 90%以上	①業間や昼休みは外に出て遊ぶことを推奨するとともに、各学年の実態に応じた目標を設定するなど、進んで運動する機会の充実と運動への動機付けを図る。また、元気っ子健康体力チェックやミニマムの結果を分析し、体育の授業の中に児童の実態に合った運動を位置付ける。 ②健康の保持増進を図られるよう、毎日、衛生指導や給食指導に取り組むとともに、学年だよりや保健だよりや食育だより等により啓発し、家庭との連携を図る。 ③避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施して、体験活動を通じた安全教育を推進する。 ④児童の健康安全についての保持・増進を目指し、工夫改善を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】全体アンケート 「自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている」 →児童肯定的回答 80%以上	①学校行事や学級活動などの特別活動において、児童が主体となり自己決定する場を積極的に取り入れる。 ②学習活動等において目標を立て、活動を振り返ることなどを通して、自分の成長を実感させる	【達成状況】 【次年度の方針】
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート 「外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 →児童肯定的回答 80%以上	①教職員が英語を使うとともにALTを活用し、英語のやり取りを中心とした授業を展開する。 ②ALTとの交流活動など、学校生活の中で英語を使う機会を設ける。	【達成状況】 【次年度の方針】

	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート 「宇都宮の良さを知っている」 →児童肯定的回答 80%以上	①生活科や社会科、総合的な学習の時間において、岡本地区や宇都宮市を教材にした学習を展開する。また、市作成教材を活用し、さらに宇都宮市のよさを実感できるよう校外学習や体験学習を積極的に取り入れるなどして授業を展開する。 ②地域の情報を収集し、学校だよりや HP に掲載することにより、児童や保護者が地域の良さを実感できるよう努めるとともに、児童や保護者の地域活動への参加を促進する。	【達成状況】 【次年度の方針】
2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート 「パソコンや図書等を学習に活用している」 →児童肯定的回答 85%以上	①情報教育担当や司書が学級担任と連携し、コンピュータ及び1人1台端末、学校図書館図書、市立図書館の巡回図書等の活用を図る。 ②読み聞かせの実施や図書だより等による啓発などにより学校図書館を核とした読書活動を推進する。 ③ICTや図書資料を意図的に取り入れ、分かりやすい授業の展開を心がける。さらに1人1台端末の導入を機に、その特性を各教科等の学習に生かす。	【達成状況】 【次年度の方針】
2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「『持続可能な社会』について、関心をもっている」 →児童肯定的回答 80%以上	①各教科指導、総合的な学習の時間、学校農園活動や花いっぱい活動など、自然環境の大切さを実感できる教育活動に取り組む。 ②避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施するなど体験活動を通じた安全教育を推進する。また様々な災害における避難方法等詳細について保護者への周知・連携を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート 「特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 →教職員肯定的回答 85%以上	①校内支援委員会及び児童に関する情報交換会等により、特別な支援を必要とする児童や保護者についての情報共有を図る。 ②校内支援委員会及びケース会議により、学級やかがやきルームでの指導方針・具体策を組織的に検討し、一人一人のニーズに応じた指導の充実に努める。また、必要に応じて外部機関との連携を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」 →保護者肯定的回答 80%以上	①いじめに関するアンケートや教育相談、いじめゼロ集会を実施し、普段から安心して相談できる教職員と児童との関係づくりに努め、未然防止、早期発見・対応を図る。 ②道徳科の授業や人権週間の設定、いじめゼロ強調月間による啓発などにより、児童にいじめをしない・許さない心情を育てる。 ③児童の情報交換会を通して、情報を共有し、いじめを生まない全校体制を構築するとともに、教職員自らが人権感覚を高める。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童(生徒)がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 →児童肯定的回答 85%以上	①学習指導や特別活動をととして自己肯定感を高める取り組みを継続して行い、児童のよさをいかす教育環境を整え、不登校を未然に防止する。 ②「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童のよさや努力などを認め励ます教育を推進する。 ③SCM及び不登校対策担当を核として組織的に支援策を検討し、保護者との連携や別室登校支援などに取り組む。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている」 →児童肯定的回答 90%以上	①体験的な活動を取り入れたり、ICT 機器等を有効に活用したりして、児童の学習意欲を高める授業の工夫をする。 ②教育相談(あのねカード)や友達にかかわるアンケート、Q-U を活用し、日頃から児童が相談しやすい雰囲気を作ったり、日々の様子から教師が適切な指導・支援・助言をしたりする。 ③教育相談週間は2週間とし、担任と児童の相談時間を十分に確保する。	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート 「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」 →教職員肯定的回答 90%以上	①学力の向上等を目指し、教材研究を十分に行い、明確な課題提示と、振り返りや発問の工夫、学び合い活動の充実等により、分かる授業の展開に努める。 ②児童の実態に応じたきめ細かな指導をするために、単元や学習内容に応じて様々な学習方法及び形態の工夫をする。	【達成状況】 【次年度の方針】

4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 →教職員肯定的回答 90%以上	①様々な学校行事のみならず、日頃の教育活動全般において、教職員と関係する学校スタッフが事前の打合せも含めて情報交換を密にし、協働の意識で業務にあたる。	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】出退勤記録 12月までの全教職員残業時間の平均→月35時間未満	①各種行事や計画の見直ししたり精選したりして、課題と成果を明らかにし、業務改善を促進させるようカリキュラムマネジメントを行う。 ②ミライムやポータルなどをより活用したペーパーレス化や効率化の推進について共通理解を図り、校務全般の一層の効率化に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 →保護者肯定的回答 85%以上	①地域学校園研修においては各部会・教科部会を別々に実施し、教育ビジョンの達成を目指し計画的に推進する。 ②「小中一貫教育だより」や「学校だより」HP等により、宮チャレ、かわちあいさつの日、中学校の乗り入れについて情報発信し、保護者や地域への周知を図る。 ③小中一貫コーナーを会議室（廊下）に設置し、地域学校園の活動の様子を周知する。	【達成状況】 【次年度の方針】
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。	①教育活動や学校運営に係る取組の成果と課題について、校内評価委員会で振り返り、よりよい家庭・地域・企業等との連携・協力について、その在り方を考える。	【達成状況】
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	【数値指標】全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 →地域肯定的回答 90%以上	②地域協議会や学校支援ボランティアとの連携を図り、その内容について各種便りやHPを活用して紹介し、より一層地域や保護者に連携・協力についての啓発活動を広げていく。	【次年度の方針】
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 →保護者肯定的回答 85%以上	①保護者や学校施設利用者へ災害時避難方法や児童送迎時の自家用車乗り入れ方法の周知、AED講習の案内など、危機対応に関する情報を適宜提供する。 ②全教職員による毎月の安全点検を行い、児童や利用者が安全に活動できる教育環境づくりに取り組む。	【達成状況】 【次年度の方針】

6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】全体アンケート 「授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している」 →教職員肯定的回答 90%以上	①スクールタクト等の教材を校内で共有し、業務の効率化を図る。 ②児童の発達段階に応じて日常的にICTを活用し、評価に生かす。 ③ICT支援員と連携し、児童や教員が1人1台端末をさらに効果的に活用できるよう取り組む。	【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校、地域学校共通	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート 「時と場に応じたあいさつをしている」 →教職員肯定的回答 80%以上	①全教育活動を通じて、明るくさわやかなあいさつができるように、全職員で指導を行う。 ②小中一貫教育、学校交流連携促進部会との関連を図りながら、小中学校、地域ぐるみのあいさつ運動を展開する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート 「きまりやマナーを守って、生活をしている」 →児童肯定的回答 85%以上	①ルールを守る、いじめをしないなど、人として大切なことを全ての職員が、すべての活動の中でしっかりと指導する。 ②小中一貫教育、学校生活・適応支援部会との連携を図りながら、小中で協力して指導していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B3 児童は家庭学習にしっかりと取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「家庭学習にしっかりと取り組んでいる」 →児童肯定的回答 80%以上	①教科の宿題以外に、自主学習ノートを主体的に利用するなど、一日にすこやか学校園で設定された時間は家庭学習に取り組むよう指導する。 ②小中一貫教育、学力向上部会と連携を図りながら、小中で協力して指導していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
本校の特色・課題等	B4 すべての学習活動を通して、児童の積極性を育てている。 【数値指標】全体アンケート 「学習や生活に進んで取り組んでいる」（1～4年） 「学習や生活に責任をもって進んで取り組んでいる」（5・6年） →児童肯定的回答 85%以上	①学校全体の活動において、各学年の発達段階に応じて、児童の自己有用感が高められるような活動の充実と改善を図る。 ②児童会活動等で全児童が主体的に活動するために、高学年を中心に代表委員を組織し、活動できるよう指導する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B5 児童が主体的に活動できる異学年交流活動の実施などにより、児童には自己有用感や協調性、思いやりの心が育まれている。 【数値指標】全体アンケート 「児童には、自己有用感や協調性、思いやりの心が育まれている」 →教職員肯定的回答 85%以上	①児童が主体的に活動できる異学年交流活動などの学校行事や体験活動等を通し、集団の一員であることの自覚や自尊感情を高めるとともに、コミュニケーション力や思いやりの心を育む。 ②認め励ます指導により、自信や自己有用感を育む。 ③「岡小タイム」を位置づけ、学級の時間や縦割り班活動を実施する。	【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。